

	課題分析	授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> 単元や課題ごとの目標を明確に示し、学習内容に対する関心・意欲を高めること。 表現活動(スピーチ、課題作文等)の機会を多く設けること。 語彙を増やし、読解や表現に生かせるようにすること。 漢字や文法事項などの定着を図る指導をすること。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元の目標と学習内容とのつながりが理解できるようにし、単元の終わりの評価を学習意欲につなげる。 話し合いや発表を通して、多様な意見に触れたり、評価したりすることで、考えを深められるようにする。 辞典を活用し、文脈上の意味を正しく捉えられるようにする。 小テスト等の実施し、自ら定着度を確認できるようにする。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 多くの生徒から話し合い活動を増やしてほしいとの声があがった。 思考力・判断力とは「事象ごとの関連性を見だし、説き明かすこと」と説明しているが、生徒に周知できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 「なぜ」「どのように」という「問い」についての話し合い活動を通して思考力を強化し、覚えた個々の知識を応用し、関連づけて理解するように指導する。 ICT機器を効果的に活用することを通して、資料の活用能力（読み取りや選別）を向上させる。
数学	<p>単元の学習のねらいを明確にし、繰り返し演習を進めていく必要がある。論理的に思考し、意見を交流することで、考えを練り上げる場面を設ける必要がある。</p>	<p>個々の生徒の特性に応じて基本問題の演習を計画的に進めていく。グループで話し合う時間を授業内で作り、1つの解答方法だけでなく、多様な考え方があることを理解させる。</p>
理科	<p>「授業の説明はわかりやすい」が、「友達と意見を出し合う取り組みの場面がある」や「授業の内容を理解したり、身に付いたりできた」が低い回答であった。見たり、聞いたりしてインプットはできるが、知識を活用して、アウトプットできたと感じる人が少ない。</p>	<p>友達と意見交換をする機会をつくり、理科の見方・考え方を働かせ、科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。例えば、実験前に展開の意義を理解させたり、結果を予想させたり、まとめの時には、根拠をもって話し合わせたりすることで、育んでいく。</p>
音楽	<p>歌唱については、新型コロナウイルス感染症によりずっと歌っていなかったため、発声に課題がある。器楽では、リコーダーに苦手意識をもって入学してくる生徒が多い。</p>	<p>歌唱については、変声期も考慮しながら、発声から行っていく。リコーダーは、オリジナル楽譜を作り、音域を考えながら、生徒の知っている曲を多く取り入れることで、楽しくかつ上手に吹けるようにさせていく。</p>
美術	<p>作品を制作するプロセスを考えたり、何をいつまでに終わらせなければいけないかを理解し、見通しをもって計画的に作業を進められるようになる必要がある。</p>	<p>全ての工程を丁寧に教えるのではなく、生徒が思考をめぐらせて作り方を試行錯誤できるように、ワークシートを用いたり、話し合いの活動を取り入れたりしていく。各時間で目標の設定を明確にする。</p>
保健体育	<p>2、3年生を中心に、仲間とアドバイスし合ったり、話し合いを通して作戦等を考えたりする時間を設定する必要がある。</p>	<p>グループ学習を積極的に設定し、相手のこと、グループのことを意識して活動する場面を作る。視点を明確にし、仲間の動きを通して自分について理解することにつなげる。</p>
技術・家庭	<ul style="list-style-type: none"> 生活体験が少ないため、視覚的教材が少ないと理解しにくいことが多い。 ものづくりの方法は1つではなく、様々な方法を探り協力して改善していく力を伸ばしていく 	<ul style="list-style-type: none"> ICT、段階模型等を活用し、『わかる授業』に努める。 生徒間の意見交換を多くし、他を認め合いながら学習を重ねていく。
外国語（英語）	<p>学習者によって語彙や文法、語法など知識面での定着の差が大きい。また、習得した知識を産出してまとまりのある文章にして書いたり、聞き手と話し手に配慮して英語を話したりするのに課題がある。</p>	<p>言語活動を通して知識の習得を図る。また、家庭学習は授業やテストなどとの関連をもたせ、学習者の意識改善につなげる。産出活動では、前もって活動の目的や目標を示すとともに、反復練習を行う。</p>

